



実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。前回のスゴイ人、宮ヶ迫 明広さんにご紹介いただいたこの方は、「海外展開だけではなく、地元貢献もしているスゴイ人」とのこと。インタビュアーは梶 志帆でお届けします。

【今回のスゴイ人】

末吉製茶工房
又木 健文さん



今回は、末吉町のご出身で末吉製茶工房の代表、又木健文さんにお話を伺ってきました。幼い頃より両親が楽しそうにお茶作りをしている姿をみて「いつかは自分もお茶をやりたい」と思っていた又木さん。農業高校と迷った末に「親に教えてもらえないこと、経営に必要なお金のことを勉強しよう」と商業高校へ進学。卒業後は一橋大学に通いながら公認会計士の勉強も始め24歳で福岡の監査法人に就職。約6年間会計士として働きました。

「たまたま、中途半端に焙煎してきたものなんです。飲んでみたら案外おいしくて。そこからブレンドを重ねて完成しました。香りがすごく良いんです」

フランスで行われたお茶の国際コンテストでは、日本人初のゴールドメダルを獲得しました。

「昔はいい物を作れば売れる時代だったけどこれからはお客さんが求めているものを作っていけないといけない。またお茶の美味しさ、楽しさをまだ知らない人たちにどう伝えていくのか考えています」

そこで今年から始めた試みがキッチンカーです。お茶に興味がない人にお茶屋さんから会いに行くことで、お茶と人の出会いのきっかけを作りお茶を沢山の人の口に飲んでもほしいそう。

「いつかお茶作りをしたいという気持ちはずっと変わりませんでした。でもお茶作りは年に一度しか結果を確かめられない。あと何回お茶を作れるのだろうかと思っただけです」

そうして30歳になったときに就農を決意。農業をしながら、積極的に商品開発や国内外のコンテストにも参加しています。海外で高い評価を受けている商品のひとつが「馨し」と名付けられた「青ほろじ茶」です。

また、300年続く会社を目指し、時代に合わせて変わる会社であるとともに、祖父の代から受け継いだ茶畑や考えを変わらず後世へ繋げていきたいと話してくれました。

実は隣のスゴイ人



▶インタビューを終えて

脈々と続くお茶畑とお茶によってできた繋がりを大切にする気持ちと、新しいお茶屋さんの形を創造していく推進力に感服しました。300年後の末吉製茶工房も気になります。



末吉製茶工房

商品の購入はオンラインショップへ



問い合わせ ☎ 050-5357-8440

※畑に出ているなどで出られない場合があります

協力隊の今日この頃

明けましておめでとうございます。改めまして地域おこし協力隊の栞志帆です。去年の6月より曾於市に来てあつという間に年越しでした。曾於市の暮らしにも道にも慣れた気がします。昨年度は、インスタグラムにて農業者PR企画として「生産者のプロフィール大公開」を実施し、沢山の農家さんの畑にお邪魔させていただきました。また、農家さん自身についても詳しく質問させていただきました。お一人お一人知れたことが楽しく面白く、勝手に仲良くなれたなと思います(笑)。

皆さんの温かさに感謝しております。また、投稿をみてくださる曾於市の方々や興味を持つてくださる方々と繋がれていることがとても嬉しいです。皆さんの暮らしに少しでも農業を感じていただけたら幸いです。今年度は新たに子どもたちに農業を知ってもらおうきっかけ作りをしていきたいと思えますのでよろしく願います。

Instagramはこちら
魅力ある農家さんを紹介中!!

